

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372100731		
法人名	有限会社マインド		
事業所名	グループホーム葵		
所在地	岡崎市丸山町字中畑8番地1		
自己評価作成日	平成24年10月20日	評価結果市町村受理日	平成25年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人、残された能力を生かした生活をしていただいています。介護計画を見直し、検討を常にする様に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族に少しでも多く利用者に関わってもらおう働きかけており、家族の来訪も多い。外泊や外食、美術館や墓参りなど家族の協力の下行なっている。利用者が車イスや骨折していても歩くことが出来ることを目標にケアを行なっており、プランにも盛り込んでいる。職員同士が助け合いながら、見守りや傾聴を重視して利用者のペースに合わせた支援を心がけている。今年からハーモニカや日本舞踊のボランティアが来訪し、利用者に喜ばれている。近くの保育園児と触れ合う機会を持てるよう、話し合いを予定している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(心安らぐもう一つの家) 今までなれ親しんできた生活と残された残存機能を生かした生活をしていただいています。	理念が「心安らぐもう一つの家」となっており、家族との絆をなくさないように継続できるよう取り組んでいる。理念については、日頃から勉強会でも話しており職員は共有できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年初めて、9月の男川学区防災訓練に参加させていただきました。 雨量が多い時など、総代さんから連絡を頂くことがあります。	今年度は学区の防災訓練に職員が参加したが、来年からは利用者も参加する予定である。子供会の獅子舞がホームの庭まで来てもらい楽しませてもらったり、また、地域の役員が地域との関わりに積極的に協力してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達が気軽に立ち寄って頂ける様に開放しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夏祭り、クリスマス会を行い、地域の子供たち、保護者、総代、民生委員、介護相談員に参加して頂いています。	運営推進会議で出た意見により、今年初めて地区の防災訓練に参加したことから、来年の春にはホームの訓練に協力してもらう予定である。地域の行事やホームの行事の件では民生委員と管理者とで、手順について話し合っている。	運営推進会議に家族の参加がないので今後、家族の参加も検討されることを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居希望の方が、グループホームに入居できるか解らない時、市の担当者に相談をしています。	医師の認定書や利用者の入居の際の不明な点については、役所に相談している。市主催の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について勉強を行っています。昼間は部屋の窓、玄関、非常口は鍵をかけていない。 AM9:00~PM18:00	単イスの入でも長時間座つたままにしないで、少しでも歩いたり、動いたりするように配慮している。外へ出たい人には一緒に付き添いながら、見守りをしている。また、スピーチロックを見かけたときは、お互いに注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、普段行っているケアを見直し、気になる事があればすぐに対処し、申し送りで行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な方は入居されていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームに適した入居対象者であるか十分に検討している。利用者様や家族の質問には、十分な説明を行い納得をして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が、毎月訪問され、利用者様の要望を聞き入れた時は、必ず伝えて頂き改善に努めています。家族の面会時、会話をし、親しみを心がけています。	家族との絆を大切にしたいと考えており、家族にはなるべく来訪を呼びかけている。なかなか来訪できない家族にはブログで更新しているが、携帯でもパソコンでも確認できるためカウントは多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞き入れる体制を心がけています。 年に2回、上司と面談する機会を持っています。	職員は、要望などを書き入れたスキルアップ計画を社長に提出している。その中で薬の知識について知りたいとの要望があり、勉強会が行なわれた。社長や管理者とは日頃からコミュニケーションをとる機会が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課を行い、向上心を持って働いてもらえる様にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加をなるべく多くの職員が受講できる様にしています。 一人ひとりスキルアップ計画をたて、目標を持って仕事してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度のグループホーム小部会に参加し、同業者との交流を通して、サービスの向上人材育成に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のこれまでの生活状態を把握し、本人にとってその人らしい暮らしを支えられる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気がかりな事や、要望などある場合、職員に伝えたり、相談できる様に面会時に声かけを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず入居前に、現在利用されているサービスに訪問し、様子を聞き入れたり、家族に見学に来て頂き、話を伺い納得して頂き入居していただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事、出来そうな事は、余り手や口を出さず、利用者様のペースを保ちながら見守り、一緒に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知り合いの方の訪問が気軽にできる様に常に訪問時は気分良く過ごして頂く様な雰陰気を心がけています。 (あいさつ、笑顔で対応)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方にあまり負担にならない程度に外出、外泊、外食ができる様に働きかけています。	知人が2、3日おきに訪ねて来たり、家族が犬の散歩の途中でホームに立ち寄り、利用者と一緒に散歩に行くなど今までの関係が途絶えないように努めている。また、墓参りや外食や専門医への受診は基本的に家族に同行してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同志、フロアで会話をされています。時々スタッフも一緒に話の輪に入っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていません。 今後の課題として検討します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりと会話をし、何をしたいのか、日々の行動、表情を見極め、把握できる様に努めています。	入居前の聞き取りを詳細に行い、入居後は日常生活の中で傾聴に努め、思いや意向を把握し、申し送り等で情報を共有している。本人が出来る役割を決めて、行なうことで、その人らしい生活を支援し、もう一つの我が家になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などを本人、家族に伺い、できる限り、利用者本位の生活をして頂ける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の言葉がけ、行動は、ゆっくりする様に心がけ、利用者様のペースに合わせる様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりの生活状況を観察し、要望を把握し、介護計画を作成し、支援内容を共有できる様にしています。	利用者の意向や要望、職員の気づきや思い等と共に、介護記録を検討し、その人らしい暮らしの実現を目指した詳細で分かりやすい介護計画を作成している。実施しているケアが計画に基づいているか確認しつつ、支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの経過表、水分摂取量、健康チェック等を記録し、疑問点を会議で話し合いをおこなっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の生活状況を家族に知って頂ける様に毎日ブログを行っています。 家族の方に喜んで頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一度の運営推進会議に総代、民生委員さんに出席して頂いており、盆踊り、お祭りの餅投げの声をかけて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の心身の変化や、異常が起きた場合気軽に相談できる医療機関を確保しています。(葵セントラル病院 田口栄一先生) 往診が毎月1回有り。	脳神経科の協力医を利用者のかかりつけ医とし、毎月の受診では、体重測定と毎日のバイタルチェック表、血液検査結果を看てもらい健康管理を行なっている。他科への受診は家族が同行し、症状や薬などの情報を共有して、支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化が起きた場合、協力医との確実な連携をおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院の為の話し合いや協力を医療機関と行っています。 職員が1週間に一度見舞い、情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化された場合でもグループホームで行える支援をできる限りおこなっています。	契約時に重度化の対応について説明し同意を得て、脳神経科医の協力医の指導のもと、ホームとして出来る、最善の方法で支援することになっている。必要になった時は、各段階で医師、家族、職員でその都度話し合い、本人、家族の意向に沿った終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時、緊急対応についてのマニュアルを作成し周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所、町内の災害支援の方達に協力して頂ける事になっています。 1年に2回、消防訓練をおこなっています。	9月の地域防災訓練に職員が参加し、初期消火や炊き出しを体験して、今後、ホームとして利用者も参加することになっている。また、夜間の避難訓練を消防署や地域消防団、自治会の指導の下、近隣住人や利用者、家族の協働で来春に実施するため、話し合いが行なわれている。	職員の防災に対する意識が高いことから、利用者と共に実施する、避難訓練の繰り返しの継続を希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉かけは、常に穏やかに接する様に周知しています。	職員はプライバシーの重要性を十分熟知し、利用者の気持ちを大切に、さりげない声かけ等で支援に努めている。不適切な対応には、職員間で助言し合ったり、管理者がその都度、指導する事で、プライバシー保護の徹底に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表示ができる方、できない方関係なく、できるだけ平等に要望に応じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを尊重し、できるだけ、個別ある支援をしています。 自室で休んだり、散歩等、一人ひとりの思いに配慮しながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容の方にグループホームまで来て頂きカットをおこなっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の畑で収穫した野菜を食材で利用し、利用者様と職員と会話をしながら、楽しく食事をしています。当日のメニューをボードに書いています。	献立は利用者の希望を聞き取り、職員が作成し、季節感のあるバランスの良い食事を提供すると共に、衛生面にも十分配慮している。利用者は買い物や下準備などの役割を持ち、本人が出来ることで参加している。おせちやひな祭り、誕生会などの行事食を利用者と共に手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を、主・副に分け、10割で記入をしています。 水分摂取量も表に記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に誘導し、個々に口腔ケアをして頂いています。 週に一度、義歯洗浄、歯ブラシを消毒しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を表に記入し、排泄時間を把握し、なるべく失敗が減少するようにしています。 日中、紙パンツ使用から、布パンツに変わった方もいます。	利用者の当たり前の生活の支援を目指し、排泄チェック表を活用して、排泄リズムパターンを把握し、声かけでトイレ誘導をすることで、ほぼ全員がトイレ利用となり、リハビリパンツやパットの利用は、夜間のみとなるなど、改善が図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や、運動をして頂き、自然な排便ができる様に働きかけていますが、2日排便がない方は、下剤を服用して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在一日おきに入浴をして頂いています。入浴を嫌がる利用者様は、無理に介助せず、時間をずらして入浴をおこなっております。	利用者の状態に合わせて、2名の職員での入浴や清拭、足浴などに取り組み、清潔保持に努めている。入浴剤の使用やゆったりとした入浴、個別のマット使用など希望に合わせた方法で支援し、衛生面への配慮と安全な入浴に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には、庭に出たり、散歩に出掛けたり、身体を動かして頂き、生活のリズムを整える様に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の用紙を一人ひとりの経過表に挟み、職員が把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、役割分担を決め、仕事をしたという充実感を味わって頂ける様に努めています。 (掃除、ベットメイキング、洗濯物干し等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩などの外出の機会を設け家族にも積極的に外食、外出などの時間を設けて頂いています。	利用者の健康と気分転換に考慮し、散歩や神社へのお参りに出かけ、住民と言葉を交わし、農作物をもらうなど、顔見知りになっている。また、ホーム行事で弁当を作って、花見に行くなどの支援に取り組んでいる。お正月やお盆の自宅での外泊の他、家族との外食や理美容院にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り、希望に応じて、家族が渡されたお金を所持して、買い物などを行っています。 (飲み物)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には、季節に合った飾り付けや、誕生日の写真、利用者様の手作りの作品を展示しています。	フローアは明るい日差しが入り、居室、台所は見守りをしやすい配置がされている。壁には季節の共同作品や夏祭り、外出時の写真が飾られ、利用者の楽しむ様子が窺えた。また、テレビを囲みソファが置かれ、利用者の寛ぐ姿が見られるなど、落ち着いた雰囲気作り出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前には、ソファが設置してあり、気軽に座ってくつろげる様に工夫してあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人の使い慣れた物を持参して頂いています。 (家族の写真、手作りの人形等)	ベッドやロッカーが利用者の状態に留意して配置され、飾り棚やテレビ、筆筒、寝具の他、仏壇などお気に入りの物が持ち込まれている。また、壁には家族との写真や手作りの作品が飾られ、その人らしい生活ができる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに手すりを設置しています。 トイレの入り口に目印が貼ってあります。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2372100731
事業所名	グループホーム 葵

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 子供会の年間行事の中にグループホームの行事も加えてもらい、獅子舞がホームの中まで来てくれたり、ホームの夏祭りやクリスマス会には子供たちが来訪している。今年初めて学区の防災訓練に職員が参加しており、来年は利用者も参加する予定にしている。中学校の先生が教職員研修として、現場体験に訪れている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 年6回開催され民生委員、地域包括支援センター職員、総代、介護相談員などの参加がある。来年の春には消防団や近所の人に参加してもらい、ホームの避難訓練を行なう話し合いがされている。地域やホームの行事の打ち合わせは民生委員と行なわれている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 利用者の入居の際に少しでもわからないことは、市の担当者に聞いている。また、市の介護相談員が毎月訪問し、利用者と話をして情報を共有している。市主催の認知症についてなどの研修には積極的に参加している。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族に利用者となるべく関わる機会を多く持ってもらうように頼んでいる。来訪時には日頃の様子や家族からの要望を聞いたりしている。去年立ち上げたブログは携帯でもパソコンでも見ることができ、写真も付いているので見易いと好評であり、カウント数も多くなっている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。